

【成果を出す組織を作るマネジメント】シリーズ

企業の“強み”を正當に評価する視点

強い組織、強い現場を作るための、やさしい現代マネジメント！

【中堅中小企業は“弱者”なのか?!】

マスメディア等でも、一般に“中小企業は社会的弱者”とされることがあります。中堅企業でも、なかなか“強者”とは見られません。

しかし、規模だけで企業の“強弱”が決まるなら、中堅中小企業の中にも“強い企業”と“力不足の企業”がある“現実”を説明できません。

【規模だけで決め付けられる“風評”傾向】

新卒採用に当たって、そうした“風評的な壁”を感じた経営者が、改めて企業の“強み”や“魅力”を、虚心に考え直す機会を持たれたケースがあります。

“風評的言葉”に対し、『大企業だって、先行きが安泰だとは言えない時代だ』としか言えない自分に『腹が立った』からなのだそうです。

【企業の将来性を感じさせる“強み”とは?】

では企業の“将来性”を感じさせる“強み”とは、いったいどのようなものなのでしょうか。そして、その“強み”を、社内の従業員や取引先ばかりではなく、一般の人にも“分かり易く”伝える方法はあるのでしょうか。

【強みを探すと、かえって弱気になる?】

そんな検討の過程で、『将来性や強みばかりを探すから、結局は見つからなかったのかも知れない』と社長は言われます。

一瞬、自社の“強み”を発見したつもりになれても、その強みが示す方向には、『もっと強い企業がひしめいている』わけですから、むしろ自信が持たなくなってしまうからです。

【積極的活動の機運を作ろう!】

では、自社が持つ“現実的な強さ”を見つけ出す方法はあるのでしょうか。もし、あるのなら、社内外の“先行き希望感”にも変化が生まれ、もっと“積極的な活動の機運”を高められるかも知れません。

【マネジメント・レポートを購読しませんか?】

そこで、先にご紹介した社長の“強み発見”過程と、それを自社なりに“分かり易く表現した”マネジメント・レポートを、ご案内したいと考えました。

有料定期購読希望の方には、レポートを差し上げています。ぜひ、ご一報ください。



一般には、企業の“強さ”を“規模”で判定することがあります。しかし、大企業や金融機関でも、経営に行き詰まると、真っ先に規模を縮小することが少なくありません。規模だけでは獲得できない“パワーの源”が存在するからでしょう。そのパワーが、新たな未来を開いて行きます。

相対的に規模が小さい企業こそ、今、その“パワーの源”に目を向けるべきなのかも知れません。なぜなら、そのパワーは“強さ”とともに、先行きの“希望”をもたらしてくれるからです。

中堅中小企業の皆様に、現代的な“人”マネジメントの視点から、重要なニュースやノウハウをお届けする月例『経営さぷりめんとニュース』に、ご意見やご感想をお寄せください！

行政書士・社会保険労務士へんみ事務所

TEL : 022-292-2351

FAX : 022-292-2352

URL : <http://www.henmi-adm.jp/>